

## 2) カレイ類資源調査

山廻邊昭文

### 目 的

本県に水揚げされる主要なカレイ類について、その資源状況や新規加入状況を把握するための調査を行った。

### 方 法

平成13年6月から平成14年3月までの間、相馬原釜、久之浜、小名浜、勿来地方卸売市場において、底びき網漁獲物を対象に、月1回の頻度で対象魚種の全長測定を行った。

調査の対象とした魚種は、マコガレイ、マガレイ、ババガレイ、ヤナギムシガレイ、ミギガレイの5種とした。

### 結 果

表1-1から表1-3に対象魚種の全長組成を、図1-1及び1-2に全長組成図を示した。

対象魚種毎の特徴は以下のとおりである。

#### (1) マコガレイ

平成13年6月の勿来での調査において、全長16cmにモードを持つ群の割合が多く、平成13年9月の久之浜での調査では、全長22cmにモードを持つ群の割合が多く認められ、この群は調査期間を通して見られた。これらは、平成12年生まれの1才魚であるとみられ、平成12年級の資源加入が認められた。

#### (2) マガレイ

平成13年9月の調査において、全長15～16cmにモードを持つ群の割合が多く認められ、この群は調査期間を通して見られた。これらは、平成12年生まれの1才魚であるとみられ、平成12年級の資源加入が認められた。

#### (3) ババガレイ

調査期間を通して、全長30cmにモードを持つ単峰型の組成を示した。小型魚の割合が少なく、平成12年生まれの1才魚の資源加入は認められなかった。

#### (4) ヤナギムシガレイ

平成13年6月の調査において、全長15cmにモードを持つ群の割合が多く認められ、この群は調査期間を通して見られた。これらは、平成12年生まれの1才魚であるとみられ、平成12年級の資源加入が認められた。

#### (5) ミギガレイ

平成13年6月の調査において、全長14cmと全長19～20cmにモードが認められた。その後は全長15～22cmの頻度が高いものの、明かなモードは見られなかった。平成13年6月に見られた全長14cmにモードを持つ群は、平成12年生まれの1才魚であるとみられ、平成12年級の資源加入が認められた。